

経営比較分析表（平成28年度決算）

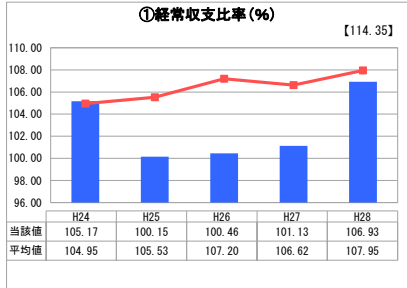
岩手県 軽米町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	55.92	72.75	5,010	

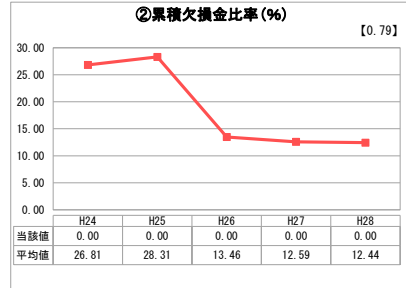
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,583	245.82	38.98
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,901	32.82	210.27

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

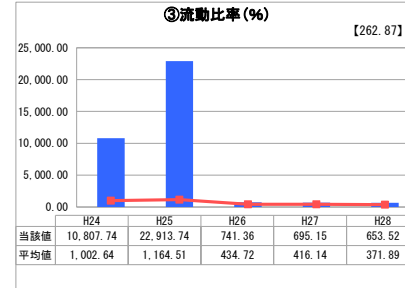
1. 経営の健全性・効率性



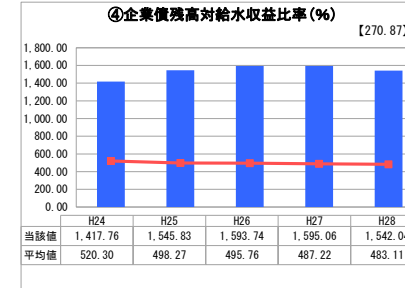
「経常損益」



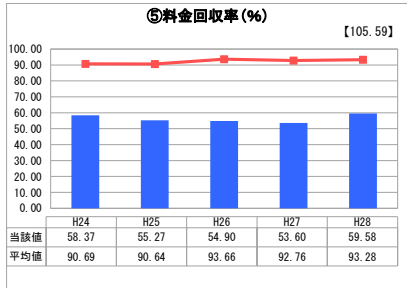
「累積欠損」



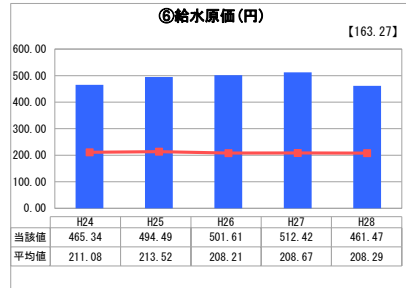
「支払能力」



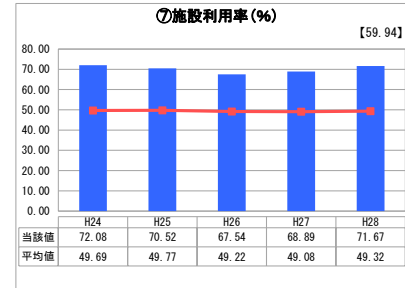
「債務残高」



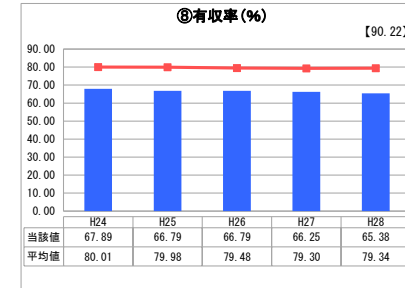
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

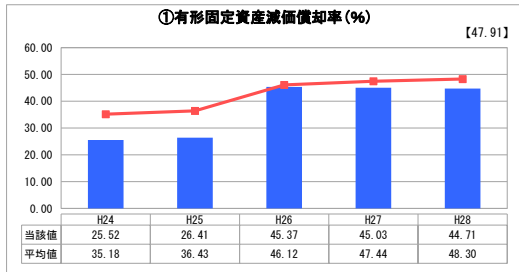


「施設の効率性」

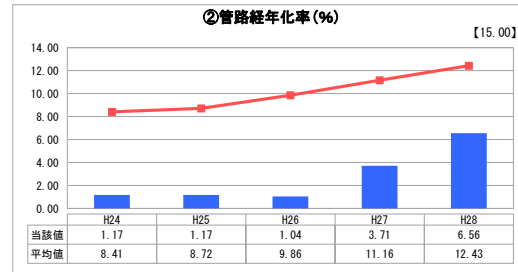


「供給した配水量の効率性」

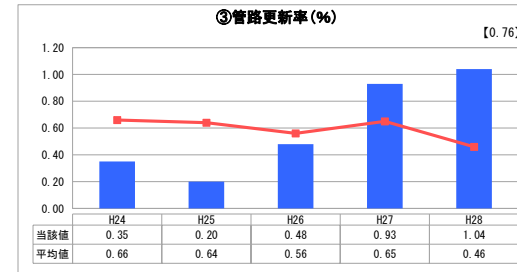
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の水道事業は、起伏に富んだ地形に集落が散在し、給水区域が広範囲であるため、人口規模に対して施設数が多く、減価償却費や施設管理費用が割高となっています。

また、建設改良費が割高となるため、財源としての企業債借入が多額となり、給水収益に対する企業債残高の割合が同規模団体に比べ高くなっていることから、企業債利息が高くなっています。

以上のことから、給水原価が同規模団体に比べ高くなっています。

収入面では、経常収支比率が100%以上となっているが、水道普及率が低く料金収入が少ないことから、料金回収率は同規模団体に比べ低くなっており、給水収益以外の収入（一般会計補助金）で賄われている状況となっています。

2. 老朽化の状況について

管路更新率が同規模団体に比べ高くなっているのは、比較的建設年度の新しい管路が多いことが要因となっています。

そのため、法定耐用年数を経過した管路は少なく、管路経年化率は同規模団体に比べ低くなっています。

全体総括

給水区域内の未加入世帯の加入促進を行い、水道普及率の向上を図り、収入確保に努めるとともに、老朽化施設の計画的更新と、漏水の早期発見及び修繕を行い、有収率の向上と費用の削減に努めます。

平成28年度に策定した「軽米町水道事業経営戦略」に基づき、水道事業経営の効率化、財源の確保など運営基盤の強化を図り、健全で持続可能な事業運営を進めます。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。